外国人保護者の安心の場づくりと
ニーズ把握を両立する挑戦

ー共生のための仕組みづくりー

令和８年度　市町村国際交流推進組織連絡会議

令和８年10月29日（木）13:30～16:00

印西市国際交流協会

副会長　川喜田　英博

印西市の多文化共生に関係する主な背景指標

- 人口：112,916人（2026年９月現在）
- 外国人登録数：3,924人（2026年４月３０日現在）
- 外国人比率：3.48%
- 在住者の国籍：75国
- 主な出身国：中国1,367人、ベトナム476人、韓国284人他
- 在留資格：永住者1,367人、技能実習473人他
- 日本人の配偶者：238人

地域の歴史的背景

1994年度：印西町国際化推進懇談会を設置

1995年：「国際化推進のための基本方針」を策定

1997年：「印西市国際化推進施策」を策定

2001年4月：印西市国際交流協会（IIFA）設立

行政と市民の長年の取り組みが、多文化共生の基盤に

ポイント：多文化共生の取り組みは、長年の行政・市民活動の積み重ねの上にあります。

印西市国際交流協会の概要

団体名称：印西市国際交流協会
Inzaicity International Friendship Association (IIFA)
所在地：印西市大森3370おおもりまちづくり会館内
設立年月日：2001年4月
理事・役員： 15名
予算規模：約500万円（内市助成金100万円）
会員数：印西市在住146名
会員数：外国人136名

印西市国際交流協会の活動内容

・市民主体の国際交流を推進
・異文化への相互理解・国際親善を促進
・日本語教室（成人、中学生、小学生）
・語学講座（英語、中国語、韓国語、スペイン語）
・外国人相談・通訳・翻訳
・交流・異文化理解・国際理解教育
・外国人市民と日本人市民をつなぐ地域の窓口

主な活動日本語教室、語学講座、外国人相談、交流事業、通訳・翻訳など

資料１

多文化共生を進める上での地域と外国人市民のつながりについて

企画政策課

2026年８月27日　印西市国際化推進懇談会

調査の概要　ニーズの把握

調査のあらまし

- 時期：令和6年8月1日～8月31日
- 対象：18歳以上のすべての外国人市民（住民基本台帳）
- 方法：郵送によるアンケート（WEB回答も可）
- 言語：英語・中国語・ベトナム語・韓国語の4言語
- 比較：令和元年度調査（n=643）

2,808
件を発送

901
件を回収(n’)

回収率 32.09%
前回（令和元年度）を大きく上回る回答数

回答した人（このテーマに関係する主な特徴）

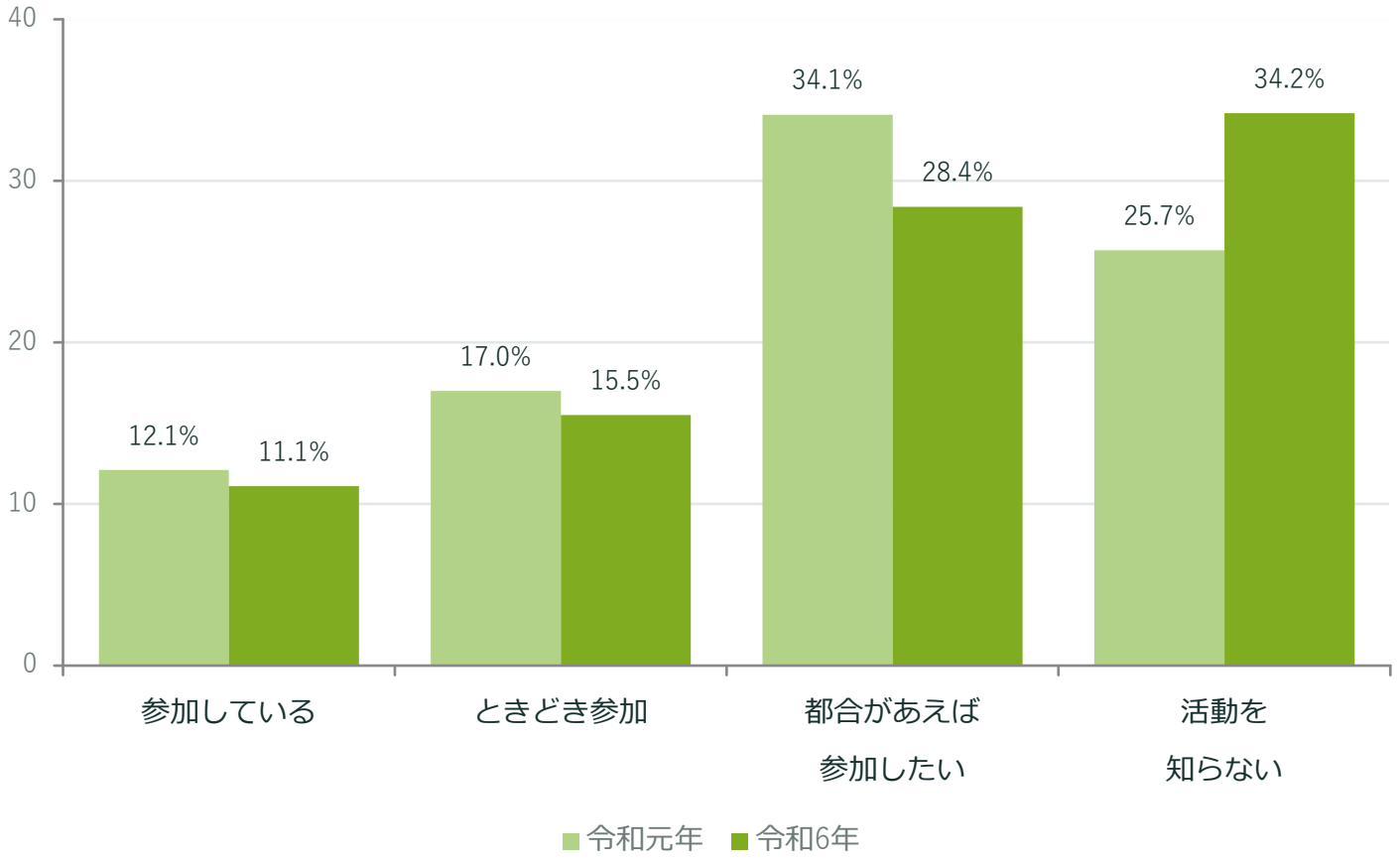
中国 36.7%
国籍で最多。次いでベトナム12.4%

30・40歳代 56.6%
子育て世代が中心

市内1～3年 28.7%
市内では新しい住民が最多

仕事のため 36.7%
転入理由の1位（＋7.3pt）

「活動があることを知らない」が最も多い



- 「活動を知らない」が25.7% → 34.2%（＋8.5pt）
- 「都合があえば参加したい」は34.1% → 28.4%（▲5.7pt）
- この2つがほぼ同じ幅で逆に動いている
- 参加したい気持ちが消えたのではなく、知らない人に置き換わったと読める
- 防災訓練も「知らない」28.2%が最多。同じことが起きている

問28「町内会や地域の活動に参加していますか」（1つだけ選択）　n'=901（令和元年 n=643）

一言でいうと　関心はある。でも、入口がない。

1

交流したい気持ちは強まっている

「交流したいが、なかなかできない」は19.0%から7.0%へ。心理的な壁は下がった。

2

活動の存在が知られていない

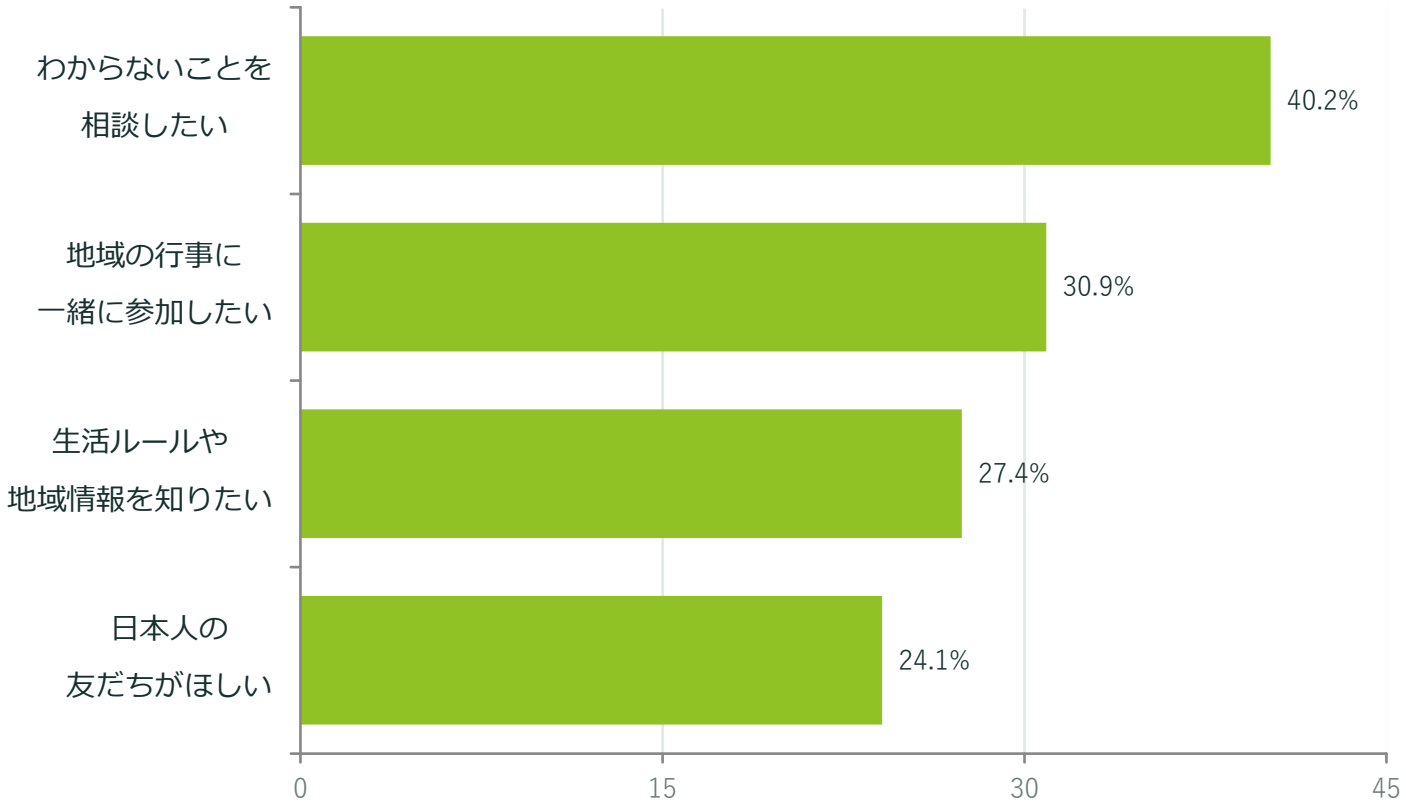
町内会などの活動を「知らない」が34.2%で最多。前回より8.5ポイント増えた。

3

情報の届く道が変わってしまった

回覧板は7.2%まで半減。市ホームページが49.7%に。地縁の経路が機能していない。

求めているのは「イベント」より「相談」と「生活情報」



交流の1位は「相談したい」

交流そのものが目的ではなく、暮らしの困りごとを解決する手段として、地域とのつながりが期待されている。

暮らしで必要と感じること

59.9% 日本の習慣や
マナーを知ること

55.3% 日本人との
コミュニケーション

問29「近所に住む日本人と、どのように交流したいですか」（複数回答）／問25（複数回答）　n'=901

外国人保護者の安心の場づくり

牧の原グリーンカフェ活動

- 外国にルーツを持つ子どもの保護者がつながる場
- 先に地域での生活を経験した保護者が、新しい家庭をサポート
- 学校行事、PTA、進学、学用品、給食などの経験を共有
- 保護者サポートグループを育成

「経験した人が、次に来た人を支える」知識・経験の循環を目指します。

印西市における外国にルーツを持つ子供の学校別在籍人数

- 17小学校182名・8中学校61名合わせて外国籍児童生徒は243名在籍しています。
- 外国にルーツをもつ子供20人以上30人未満５校、10人以上20人未満3校、10人以下９校（小学校）
- 中学校　10人以上15人未満３校、12人以下５校
- 国籍は中国、韓国、スリランカ、フィリピン、ネパール、アフガニスタンなど多岐にわたります。
- 学校によっては外国籍児童生徒が在籍していない場合もあります。

外国にルーツを持つ学童を対象とした包括的教育支援プロジェクト

保護者同士の支え合いから、子どもたちの学びを支える

目指すこと

- 保護者が教育・学校生活の知識や情報を共有する
- 先輩保護者が新たな転入者を支える
- 保護者グループが主体的・継続的に活動する
- 小・中学校を越えた学び合いのネットワークをつくる
- 家庭と学校、地域とのつながりを深める

１）の実施体制

実施団体：印西市国際交流協会

協力団体：• 印西市教育委員会

- 印西市小中学校校長会
- 公益財団法人　笹川平和財団

実施場所・開催頻度：• 2024年9月：牧の原小学校会議室で開始

- 2025年4月：隣接する地域交流館へ会場を移行
- 月1回開催、現在まで24回開催

２）IIFAによる保護者グループへの支援

保護者が自分たちで活動を続けられるよう、幅広く支援します

- 人材の派遣・配置
  英語、中国語、韓国語などに対応できるスタッフを派遣
- 活動経費の支援
  会場での茶話会・食事会、文房具、コピー代など
- 交流・情報共有の支援
  母語や国籍の異なる保護者同士をつなぐ
- 学校情報の理解支援
  学校からの配布文書や連絡事項を理解するための支援

3）日々の困りごとを解決する支援

子どもと保護者が、学校や地域で必要な知識を得られるよう支えます。

- 学校生活や学習に関する相談
- 困りごとの解決に向けた情報提供・アドバイス
- 学校生活・地域生活に必要な日本語学習
- 日本の文化や年中行事について学ぶ機会
- 学校生活の習慣やルールを知る機会

一方的に支援するのではなく、保護者同士が相談し、考え、解決する力を育てます。

４）入学・学校生活の情報共有

先輩保護者の経験を、これから学校生活を始める家庭へつなぎます。

- 入学・編入学に必要な手続きや準備の情報提供
- 母語による説明資料の作成
- 学校行事、持ち物、提出物などの情報交換
- 新しく転入した家庭への入学・編入学ガイダンス
- 学校との連絡方法や地域生活の情報提供

５）保護者グループの活動□学びと文化の交流

保護者同士が互いの文化を知り、地域での暮らしに必要な知識を学びます。

- さまざまな国の文化や生活習慣の紹介
- 学校生活・地域生活に必要な日本語の学習
- 日本の年中行事や学校文化の学習
- 日本の学校生活のルールや習慣についての情報交換
- 文化の違いを尊重し、相互理解を深める活動

６）保護者グループの活動□進学と継続的な支え合い

一度の情報提供で終わらず、成長や進路に応じてつながりを保ちます。

- 中学校・高等学校などへの進学情報の共有
- 進路選択に役立つ情報の提供
- 学校や地域での経験を、新しい保護者へ伝える
- 子どもや家庭の課題について、保護者同士で相談する
- 小・中学校を越えて情報や経験を共有する

保護者同士のネットワークを、継続的な支え合いの基盤にします。

７）期待される成果

本プロジェクトを通じて、次のような変化を目指します。

- 子どもと保護者が、日本の学校制度や学校生活を理解する
- 新しく転入した保護者が、必要な情報や経験を得る
- 保護者同士で支え合う自律的なグループが育つ
- 小・中学校を越えた情報共有ネットワークができる
- 外国にルーツを持つ子どもたちの教育環境が改善する
- 地域社会における多文化共生が進む

8）これまでの牧の原グリーンカフェの主要なトピック

- 保護者グループの形成と運営
- 子供の日本語教育と言語習慣
- 日本の学校教育制度への理解
- 子育てに関する悩みと情報交換
- 地域の生活情報と行政サービス
- 多文化交流と相互理解
- 保護者同士の支え合いと情報の蓄積
- 活動の発展と地域への展開

９）「支援される側」から「支え合う人」へ

このプロジェクトでは、外国にルーツを持つ子どもや保護者を、支援を受けるだけの存在とは考えません。

日本の学校生活を経験した保護者が、その知識や経験を新たな転入者へ伝える。

その経験を受け取った保護者が、次の誰かを支える。

支援する人から、支え合う人へ

この循環を印西市内の小・中学校へ広げ、子どもと保護者が地域で安心して学び、暮らし、互いに支え合えるネットワークをつくる。

ご清聴ありがとうございました。